

がん相談支援センターだより

第43号

令和7年8月発行



第2回東札幌病院地域・緩和ケアセミナー

～がん治療と緩和ケア～を開催して

地域連携室長 西 朝江

「2024年度の緩和ケアに関する病診連携の報告」

副看護部長 青田美穂

セミナーご参加の皆さまより

かえでクリニック 院長 渡邊晃一

りんごの木クリニック 晴山弘子

社会医療法人 関愛会 江別訪問診療所 緩和ケア認定看護師 奥岡由美

薬剤課について

薬剤課 薬剤師

茅野杏那／仲川 萌

ボランティアだより

院内活動スタッフ 鳴澤 美由紀

ソーイングスタッフ 星野 真由美

第2回東札幌病院地域・緩和ケアセミナー

～がん治療と緩和ケア～を開催して



6月12日木曜日19時から札幌コンベンションセンターにおいて、第2回東札幌病院地域・緩和ケアセミナー～がん治療と緩和ケア～を開催いたしました。本セミナーは昨年より開始していますが、今年も昨年同様多くの関連医療機関よりご参加いただきました。訪問診療をなさっている医療機関や在宅特化型薬局、高齢者施設など、20施設40名もの医師、看護師、ソーシャルワーカーの皆さまにご参加いただき、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。また、当院からは昨年を上回る65名もの参加がありました。

会に先立ち、日下部俊朗院長より開会の挨拶、続いて当院の医師より自己紹介を行いました。常日頃、病診連携の機会がございますが、直接主治医間でお会いする機会はありません、[顔の見える連携]の一助となったものと思われます。

演題1は「2024年度の緩和ケアに関する病診連携の報告」をテーマに、当院緩和ケア科部長 町野孝幸、看護部副看護部長/緩和ケア認定看護師 青田美穂が担当し、町野医師からは、バックベッド（在宅療養されている方の緊急時の入院受入機関）登録数・紹介医療機関の内訳・在宅お看取り数等について、青田副看護部長からは、緩和ケア病棟の利用状況・特徴・入棟条件のほか、緩和ケア病棟や一般病棟を幾度か治療（輸血、PICC交換、感染症治療など）目的で入院しながら在宅療養を継続できた症例について報告がありました。

演題2は「当院における緩和的内視鏡治療」をテーマに、当院内科部長/医局長 伊藤智子が講演を行いました。

■当院の内視鏡室の沿革・概要：1983年開院当初より配置され、①地域医療における内視鏡検査、および診断、治療、②検診、人間ドックなどの検診、③緩和的内視鏡治療を行っています。また札幌医科大学耳鼻咽喉

科学・頭頸部外科学講座からの出張医による診断、ファイバースコープ検査も週1回行っています。

■内視鏡室スタッフ・器材の紹介：日本消化器内視鏡学会指導医2名、専門医3名の常勤医師、2名の内視鏡検査看護師、臨床検査技師（内視鏡検査技師）を配置。スコープは上部消化管内視鏡、十二指腸内視鏡、下部内視鏡、超音波内視鏡スコープ、その他内視鏡システム、高周波装置、内視鏡洗浄装置を有しています。

■当院の内視鏡検査、治療の実績：2024年度の内視鏡検査数は、上部消化管1,159件、下部消化管564件、ERCP43件、EUS（EUS-FNAを含む）6件でした。また治療として、上部止血術、上部異物除去術、上部EMR/ポリペクトミー、上部ESD、胃婁造設術、食道・胃十二指腸ステント、経鼻イレウスチューブ挿入、下部止血術、下部EMR/ポリペクトミー、大腸ステント、経肛門イレウスチューブ挿入、内視鏡的逆行性胆道ドレナージ、内視鏡的採石・砕石を行っています。

■緩和的内視鏡について：近年内視鏡デバイスの発達により、あらゆる内視鏡治療が可能になっており、高齢者やPerformance Statusの低下している緩和ケア患者さまに対しても侵襲が少ない内視鏡治療が可能になっています。当院では、「消化管内視鏡検査体制と緩和ケアを融合」し、消化管内視鏡処置にて緩和ケア患者さまの症状緩和をはかる「緩和的内視鏡治療」を行うことができます。例として、消化管の減圧、通過障害の緩和、閉塞性黄疸の緩和などです。このことにより、がん終末期患者さまによる症状の軽減やQOLが向上し、在宅療養継続を可能にし、生命予後にも影響する可能性があります。また、緩和的内視鏡治療のエビデンスとして、本邦のがん患者さまの消化器症状の緩和に関するガイドラインや胆道がん、胃がん、膵がん、食道がん、大腸がん

など各診療ガイドラインでも症状緩和に関して推奨されています。

■当院の緩和的内視鏡治療の実際：上部止血術、上部および下部バルーン拡張、胃ろう造設術、経口イレウスチューブ、経肛門イレウスチューブ、食道ステント、胃ステント、十二指腸ステント、大腸ステント、内視鏡的胆道ドレナージを行っています。

■緩和的内視鏡治療の症例報告：消化管通過障害や悪性胆道狭窄への緩和的内視鏡治療の症例分析結果を報告しました。緩和ケア症例であっても、患者さまの全身状態やステージ、がん腫、併存症、予後予測スコアなどを踏まえたうえで、適切な内視鏡治療を行うことで、QOLだけではなく、生存期間の延長を示唆することが示されました。以上の報告を、実際の治療画像も用いて具体的にお示し、本セミナーにご参加の皆さまに対し、消化器症状の

あるがん患者さまの症状緩和やQOL向上のための緩和的内視鏡治療について検討、当院へご相談いただくようご紹介いたしました。

セミナー終了後の懇親会にも大勢の参加があり、訪問診療をされている医療機関の先生にはスピーチもしていただきました。地域との窓口となるがん相談支援センターのMSW室、地域連携室の職員も、訪問診療をされている医療機関の医師、看護師、ソーシャルワーカーの皆さまと直接ご挨拶や情報交換ができ、今後の連携につながる良い機会であったと大変喜んでおりました。年1回程度の開催となっております本セミナーですが、来年も、在宅療養を継続されている患者さまの支援にとって有益な会とできるよう努めますので、お忙しい中恐縮ですが、ご参集くださいますようお願いいたします。

2024年度の緩和ケアに関する病診連携の報告

副看護部長 青田 美穂

昨年度に引き続き、6月12日に第2回東札幌病院地域・緩和ケアセミナーを開催いたしました。「2024年度の緩和ケアに関する病診連携の報告」として、緩和ケア科部長の町野孝幸医師が、当院の概要や特徴を紹介し、2024年度に緩和ケアを目的としてバックベッド登録した件数などを報告いたしました。1年間のバックベッド登録件数は335件、うち入院となったのは113名でした。入院依頼があった際の当院入院までの期間は、当日が53名（47%）と最も多く、翌日と3日以内がそれぞれ16名（14%）、7日以内22名（20%）、14日以内6名（5%）でした。また入院依頼内容としては、病状悪化76名（67%）、在宅療養困難18名（16%）、その他は病状評価や介護負担、苦痛症状緩和、輸血、放射線治療などでした。バックベッド登録された335名のうち、お亡くなりになった方は216名でしたが、当院入院が86名（40%）で、130名（60%）の方はご自宅や施設で最期を迎えられていました。

続いて、私から2024年6月より緩和ケア病床が58床から84床へ増床となった後の緩和ケア病棟利用状況、当院の緩和ケア病棟の特徴などを説明させていただきました。

当院では、開院当初から緩和ケア病棟に限らず病院全体で包括的がん治療と緩和ケアに取り組んでおります。がんの積極的治療が難しくなり他院から紹介、訪問診療・訪問看護を利用しながら、1年ほどご自宅での療養と入院を6度繰り返した患者さまの症例を紹介しました。入院は緩和ケア病棟を中心と考えましたが、空床がなく緊急で入院が必要な際には一般病棟でも受け入れ、症状緩和のための治療や処置を行いました。苦痛症状が落ち着いた段階でご自宅に戻られ、ご家族との生活を可能な限り持つことができました。『家でも病院でも安心できる医療者にサポートしてもらえて幸せ。』と患者さま、ご家族が感謝の言葉を残してくれたのが印象的でした。

今後も在宅診療や訪問看護に関わる医療機関の皆さまと顔が見えるつながり（連携）を大切にして、地域で暮らす方々の生活や人生を支援していきたいと再認識できるセミナーとなりました。



セミナーご参加の皆さまより

今回のイベントに参加された皆さまより、コメントをいただきました。

かえでクリニック 院長 渡邊晃一様より

今回第2回地域・緩和セミナーが開催され昨年に続き参加させていただきました。日頃から東札幌病院様にはがん患者さま・非がん患者さまに関わらずお世話になっており、特にがん患者さまのバックベド対応をいただいたりと患者さまやご家族の安心にも繋がっており、状態の悪化などで自宅での療養継続が困難となった場合にはいつも快く入院を引き受けてくださり感謝申し上げます。

今回の緩和セミナーでは病診連携の報告、緩和的内視鏡治療に関して演題がありました。昨年6月から緩和ケア病床が58床から84床に増床され、訪問診療を行っている身からは看取りまで在宅で過ごされる患者さまも多くいる一方で、ご家族の介護負担や施設生活の問題などにより最期は病院で過ごされたいというニーズも非常にあります。東札幌病院で勤務していた頃を思い返すと、緩和ケア病棟で穏やかに過ごしていた方はたくさんおられ、コロナ禍でも面会制限なくそれぞれの方が過ごしたいように対応いただいていたのが非常に喜ばれていたのも思い出します。

昨年に第1回地域・緩和セミナーが開催され、常勤の放射線治療医が赴任したこともあり緩和的放射線照射の受付がどの曜日でも可能になったこと、外来

での照射も可能という話が印象的でした。今回は緩和的内視鏡治療についての演題があり、本人の全身状態が許すのであれば消化管止血術や胆管ステント留置・交換や大腸ステント留置など必要に応じてご対応されている様子うかがえました。また、症例提示されていた食道がんの食道ステント留置の患者さまに関しては食道狭窄後2年近く生存されていたように記憶していますが、かなり長期的に経口摂取ができる状態を維持して最期を迎えられたというのが印象に残っております。

懇親会の中では地域の訪問診療クリニックの先生方や居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションの方々が参加され活発な意見交換が行われておりました。そういった方々と一同にお会いできる場も少ないため、意見交換をできることはこのセミナーに参加する意義の一つにもなっております。また、個人的には過去に一緒に勤務していた看護師さんなどとも話ができる場にもなっておりとても有意義な時間を過ごさせていただきました。

最後になりますが、東札幌病院のこれからのご活躍と発展をお祈り申し上げるとともに、来年の開催も楽しみにしております。



今年も東札幌病院の地域・緩和セミナーにお声がけいただき参加いたしました。

今回セミナーに参加し興味深かったのは緩和的内視鏡治療のプログラムでした。中でも内視鏡下にてステント留置された方の事例を交えてのお話は画像も交えてのお話で知識不足な私も理解しやすく大変興味深く拝聴いたしました。

「緩和ケア＝ただただ最期を待つ」という認識を持たれる方にお会いすることもあります。今回、セミナーに参加し緩和的内視鏡治療の知識を得たことで

緩和的治療としての具体策を提示できる例が増え、患者さまの支援の幅が広がったように感じます。とても貴重な機会をいただきありがとうございました。東札幌病院は当院からもたくさんの患者さまの後方支援病院としての登録をお願いしています。いつも迅速かつ丁寧に対応をしてくださる地域連携室の皆さまに感謝申し上げます。

今回はどのようなテーマでの講演をされるのか楽しみにしています。

第2回地域・緩和セミナーの開催にあたり病診連携についての内容ということで、当院の緩和ケアとしてのバックベッドとして、日頃より東札幌病院さんに依頼させていただいていることもあり参加しました。

当診療所が緩和ケアを提供する患者さまは終末期の方がほとんどであるため、看護師として何かできるのか常に考える日々です。当診療所でも緩和的放射線治療をお願いするケースはありましたが、このセミナーに参加して内視鏡を含め、患者さまの病状にあわせた柔軟性のあるさまざまな治療や対応をされているということを知ることができました。あわせてバックベッドとして大変安心して患者さまをお任せできる病院だという理解も深まりました。

訪問診療を受ける患者さまの多くは、これ以上の積極的な治療は難しいと告げられています。しかし、

がんの進行に伴い様々な症状が出てくることも現実としてあります。根治的な治療は難しい状況であっても、苦痛を和らげるために、QOLを維持向上するために、様々な選択肢があるということを改めて認識しました。今回のセミナー参加を機に、私自身、「緩和ケアとしてできること」という思考の幅を広げることができたので、今後の在宅医療の現場において、医師とともに患者さまの最善を考える際に役立つと感じました。病状が進んでも、あらゆる緩和の手段を使って、その人らしく過ごすことを支える、東札幌病院の質の高い緩和医療・ケアの在り方を学ばせていただく貴重な機会を与えていただけたことに改めて感謝申し上げます。

今後もさらに連携を密にしていき、患者さまやご家族の皆さまに安心いただける医療を提供していきたいと思っています。次回のセミナーも期待しております。



薬剤課について

薬剤課 薬剤師 茅野杏那／仲川 萌



薬剤課には、13名の薬剤師と2名の薬剤助手が在籍しています。私たちは薬の専門家として、患者さまが安心して治療を受けられるよう、日々多岐にわたる業務に取り組んでいます。緩和薬物療法認定薬剤師やがん薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム（NST）専門療法士といった専門資格を持つ薬剤師も在籍しており、それぞれの専門性を活かし、患者さまの治療をサポートしています。

調剤業務

調剤業務は、患者さまの薬を安全かつ正確に準備することです。医師の処方箋に基づき、薬の種類や量を揃え、間違いがないかを細かく確認します。また、患者さまの他の薬との飲み合わせや病状に合っているかなどもチェックし、必要に応じて医師に提案することもあります。入院患者さま向けの内服薬や注射薬など、あらゆる薬が適切に使われるよう、薬剤師が責任を持って調剤しています。

DI業務

DIは「DrugInformation（医薬品情報）」の略で、薬の専門家である薬剤師が、薬に関するあらゆる情報を集め、整理し、それを必要とする人たちに伝える役割を担っています。医薬品の適正使用を目的として、医薬品情報を紙媒体・電子媒体で提供しております。

抗がん剤調製

抗がん剤は取り扱いに特別な注意が必要な薬です。当院では全ての抗がん剤を薬剤師が専用の設備（安全キャビネット）の中で慎重に調製しています。抗がん剤の調製では、薬の量はもちろん、体への負担を減らすための「投与速度」や「濃度」、投与にかかる「時間」なども細かく確認します。もし、患者さまの安心・安全につながると感じたときには、処方について医師に確認させていただいたり、提案をすることもあります。

病棟業務

病院薬剤師は、薬局の中だけでなく、病棟にも出向いて患者さまの治療を直接サポートしています。これが「病棟業務」です。具体的には、患者さまが入院中に安心して薬を使えるよう、以下のことを行っています。

服薬指導



患者さまを訪問し、処方された薬についてベッドサイドで詳しく説明します。「この薬は何の病気に効くのか」「どうやって飲めばいいのか」「どんな副作用に注意すればいいのか」など、患者さまが抱える疑問や不安を解消し、安心して薬を服用できるようお手伝いします。

薬の確認



患者さまが現在飲んでいる薬と、新しく処方された薬との間で、飲み合わせが悪いものがないか（相互作用）、以前に薬でアレルギーを起こしたことがないか、また持参された薬が何か（薬剤鑑別）を細かく確認します。これによって、より安全な薬物療法が行われるよう努めています。

内服薬の準備



患者さまが毎日飲む薬は、服用時間ごとに細かく分かれてセットされた「内服カート」で病室に届けられます。この内服カートに、患者さま一人ひとりの薬を正確にセットする作業は、全て薬剤師が行っています。

注射業務

薬剤師は、医師の指示に基づき、患者さま一人ひとりに必要な注射薬を準備します。このとき複数の注射薬を混ぜて使う場合、薬同士が化学的に変化してしまわないか「配合変化」を確認したり、また体内で悪影響を及ぼし合わないか「相互作用」をチェックしています。これにより、注射薬が安全かつ最大限の効果を発揮できるよう努めています。



ボランティアだより

今回は、当院でボランティアとして活動されている
スタッフからのコメントをご紹介します。



院内活動

担当

鳴澤 美由紀さん

患者さまの散歩、お話し相手の活動をしています。患者さまは身体が辛い、思うように動かないなど、自分が以前のようにあり続けられないという、不安や寂しさを抱えて日々を過ごされています。病室へ伺うと、患者さまは緊張され、会話が續かないこともしばしばです。打ち解けていただけると、子どもの頃の思い出や趣味の話題など、他愛のない話題でお話するように心がけています。お話を続けているうちに、患者さまが心の中に抱えていらっしゃる思いを吐露する時もあります。受け取めるには難しい内容に戸惑うこともあります。「お話しをして気持ちがすっきりしました」「話を聞いてくれてありがとう」との言葉をいただけます。言葉を出すことが難しく、頷いたり、指をさしたりでコミュニケーションを取ろうとする患者さまに対しては、気持ちを受け取れているだろうかとはがゆさを感じる場合もあります。患者さまの表情が徐々に柔らぎ、笑顔になった時には、言葉では言い表わすのが難しいのですが、大切な贈り物をいただいたと感じます。これからも患者さまの心に寄り添って活動を続けていきたいと思っています。



ソーイング

担当

星野 真由美さん

コロナ禍以前、東札幌病院の夏祭りは盛大に行われていました。ボランティアは当日病室を訪問し

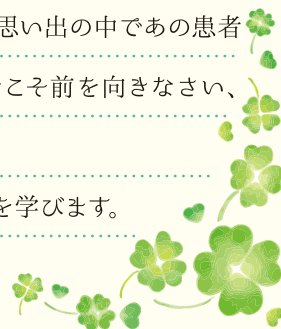
「お祭りに行きませんか」とお声がけをします。

ある年の夏祭りの日、私は東棟2階の病室を回っていました。個室の男性患者さまをお誘いしたところ「体調が悪くて行けない」というお返事でした。戻りかけた私に彼は「ボランティアさん、いつもありがとう。あなたはお祭り楽しんでね」と優しくお声をかけてくださいました。

毎年夏祭りの季節が近づくと、なぜかこの情景がよみがえります。私の思い出の中であの患者さまは静かに前を向いてすっと立っています。苦しいときや辛いときこそ前を向きなさい、周りに優しくしなさいと言っているかのようです。

このように、私たちボランティアは患者さまとの触れ合いから多くのことを学びます。

それが自分の人生の指針となっています。





患者さまのご紹介

受診・検査・入院予約について

当院では、他医療機関からのご紹介による患者受診受付を、がん相談支援センター地域連携室で承っております。

直通ダイヤル

TEL 011-817-5120 FAX 011-817-5130

予約・予約変更の電話受付時間 月曜～金曜 9:00～17:00 / 土曜 9:00～12:00

■ ご紹介の流れ

一般外来受診希望者のご紹介

セカンドオピニオン外来、
病をよく識る外来(病理相談)を除く

1 ご紹介元医療機関が 電話またはFAXを送信



【診療予約(一般外来)申込票Word]、診療
情報提供書(処方内容含む)にて予約日時、
患者受診科を決定します

2 東札幌病院地域連携室が ご紹介元医療機関にFAX



●東札幌病院受診予約票

3 ご紹介元医療機関が 患者さまへ予約票をお渡し



●予約票

4 ご紹介元医療機関からの 診療情報提供書、画像など



●本人持参または地域連携室へ事前に郵送

5 患者さまが予約日時に 外来受診



●保険証 ●診療情報管理提供書
●予約票 などを持参

※診療予約(一般外来)申込票、外来問診票、外科(肛門科)問診票、外科(乳腺)問診票、
外来(歯科・歯科口腔外科)問診票は、当院ホームページよりダウンロードできます。

〈各種申込票・予約票・問診票ダウンロード〉

<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

緩和ケア目的での入院、 外来通院希望者のご紹介

1 ご紹介元医療機関が 電話にてご連絡



電話にて相談

2 ご紹介元医療機関が 当院へFAX送信



●診療情報提供書のコピー
●患者情報用紙または看護添書のコピー
●保険証のコピー

3 東札幌病院地域連携室が 受診日、転院日を調整



●東札幌病院受診予約票

4 ご紹介元医療機関からの 診療情報提供書、画像など



●本人持参または地域連携室へ事前に郵送

5 患者さまが予約日時に 外来受診・転院



●診療情報提供書(処方内容含む)
●患者情報用紙または看護添書
●検査画像(直近のもの)
●採血データ ●保険証

※外来問診票は、「患者の受診のみ」もしくは「患者と家族が受診」する場合は患者用の外来
問診票を、「家族のみ受診」する場合は家族用の外来問診票をご持参ください。※入院・転院
患者情報用紙、外来問診票(患者用・家族用)は当院ホームページでダウンロードできます。
<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

※保険診療となります。診断群分類包括制度(DPC)の場合など、医事課あての連絡文書
をお願いします。

関連施設のご紹介

厚別老人保健施設 ディ・グリュエーン
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-5580 FAX 011-898-6760

訪問看護ステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2600 FAX 011-812-2605

訪問看護ステーション みずほ
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目12番28号
長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5855 FAX 011-807-5157

指定居宅介護支援事業所 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2500 FAX 011-812-2533

指定居宅介護支援事業所
ディ・グリュエーン
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目
12番28号 長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5156 FAX 011-807-5157

札幌市白石区
第2地域包括支援センター
〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番25
(株)シグナルビル 5階
TEL 011-837-6800 FAX 011-837-6801

介護予防センターもみじ台
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-8660 FAX 011-898-6760

医療法人東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2311 FAX 011-823-9552

<https://www.hsh.or.jp>

発行

がん相談支援センター
TEL 011-817-5120(直通)
FAX 011-817-5130

発行責任者:医療法人東札幌病院 がん相談支援センター
編集責任者:病院長 日下部俊朗

